

就中最終のヌラヴ主義の崩潰を説ける部分は余蘊の最も興味深く讀了せし所にして、ヘーゲル流の獨逸哲學の影響を受けて勃興し來りし該思想は其根本に於て相容れざる國粹主義と世界史的主義とが抱合し居るを以て其分裂崩潰は免れ難き所なるを論じたる邊は尤に傾徳すべきものなるべし(以上植村)

●支那佛教遺物

松本文三郎著

四六版三百頁、挿入圖版二十三頁の冊子にして、著者が大正六年夏秋に亘り佛教關係の遺跡遺物を探りて支那内地を旅行せる際、調査せる所の事實を叙し、また是に研究考證を加へて歸來諸雜誌に發表せる論文を纏めたるものなり。收むる所先に本誌に載せられし支那歷游記略を初として支那佛教の現状、西安懷古、支那佛教の遺物、大同の佛像、石經、經幢、物語繪の淵源、六朝時代の彫像題銘より見たる淨土思想に至る九編、何れも著者が深き研究に成れるもの、挿入の圖版と併せて興味深し。特に文中「大同の佛像」を論じて、これに三種の様式上の別あるを説き、其の系統を明にせるが如き、我が物語繪の起源を辿りて印度に之を求めたるが如き、又石經に關する研究を總括せるが如き最も見るべきもの一なり。支那佛教藝術の探求者に裨益を興ふる蓋し大なるべし(價二六〇、大燈閣發行)

●古蹟調査特別報告 第一冊

朝鮮總督府

朝鮮總督府の大正五年度の古蹟調査に於いて最も興味ある結果

を齎せる平壤附近の樂浪時代の墳墓に就いて、關野、谷井兩委員、栗山、小嶋、小川、野守諸氏の提出せる報文、寫真、實測圖を取めたるものにして、四六倍版、本文四號、活字十六頁、挿圖六十三圖、地圖一枚より成る。報文は先に刊行せられたる「大正五年度古蹟調査報告」載する所の關野委員の平安南道大同郡順川郡、及龍岡郡古蹟調査報告書の第一章と殆んど同一の簡單なるものなれど、此の冊に於いては、其の構造に依り(一)木槨を有する墳墓、(二)木槨の底部及び四圍に玉石を詰めし墳墓、(三)木槨外部を塼にて包みし墳墓(四)塼槨にして木製の天井を有せし墳墓、(五)塼槨にして甕蓋天井を有する墳墓、(六)塼の殘缺を以て槨を造れる墳墓に分ちて記載せり。挿圖の内最も重要なるは是等古墳の實測圖にして、外形、構造、遺物の配列等に亘り精密なる製圖を載せ、版は主として玻璃版なるも、石版色刷をも併せて用ひて其の鮮明を期し、所載の寫真と對比せば遺蹟の状態瞭然たり。蓋し近く此の報告の第二冊として刊行の豫定なる出土遺物の解説と相待りて、貴重なる遺蹟の完全なる報告書を成すものと見るべし。(非賣品)

●奈良縣史蹟踏査會報告書 第六回 奈良縣

大正七年度の報告書あり。體裁はすべて既刊の分に同じく、本文六十頁、圖版四十六葉、附録八頁より成り、收むる所佐藤委員

提出の山邊郡二階堂村大字平等坊石器時代遺蹟、磯城郡柳本村大字柳本大塚出土の古鏡、高橋委員報告の南葛城郡名柄發掘の銅鐸及銅鏡、吉野郡北六田古墳及び大宮委員の式内飛鳥坐神社及び是と關聯せる二神社の調査の五編あり。而して、大宮氏の報告には添ふるに天沼委員の享保十年火災後の飛鳥神社沿革概要を以てせり。然るに本報告は從來の分と異なり、土代考古學上の遺蹟を主とし、殊に昨年度に於ける同縣下の主要なる發見事項を蒐め何れも豊富なる圖版を用ひて、其の遺蹟の狀態、遺物の性質を明にせるものなるを以て、今後の研究の基本となるべきもの多し。而して其の佐藤氏の報告に於いて柳本發見の大鏡を我が鏡作部の製作なりと斷ぜる所、また高橋委員が學界の問題となれる名柄發見の銅鏡を鈕の二個あると、鋸齒紋の尖端の内行なるとより推して同じく和製なりとし、北六田の古墳の構造より所謂阿波式棺を石棺なりと説けるが如きは、學說として注意に値すべきなり。因に本書は一般希望者に對して奈良明新社より實數にて頒布すと云ふ。

●●●●●
家藏古瓦譜

天沼俊一編

七歳にて逝ける長女の記念として一冊を限りて印行し、知友に頒てるものなり。菊版和装の二冊本にて、上巻には初に出版の由來、古瓦研究の主意、本書の體裁等に就いて記し、次に瓦譜に載する遺品を出せる古社寺にして、其の遺址の多く世に聞えざるも

の三十一ヶ所を撰び、一々沿革を叙し、下巻は専ら瓦の寫眞を掲げたり。收むる所、氏が奈良在任中の蒐集に係る一百八十餘種にして、上は飛鳥時代より、下明治時代に亘る各代の遺品を含み、これを壘、鬼瓦、花瓦、疏瓦に別ち、何れも二分の一大に表し、覆紙には當該瓦の説明及び著者の古瓦に關する見解を録せり。古瓦の研究に就いては古く關野工學博士の論文あり、近頃また雜誌上に散見するも、其の多くは斷片的にして且つ上代に偏するの憾あり。本書はこの點に於いて能く近代のものをも集めて、以て古瓦の沿革一斑を知らしむに足るべく、殊に一々に就いて著者の興味ある研究を載せれば此の方面の研究者に裨益を與ふる多からむ(非寶品)

●●●●●
國東塔講話

天沼俊一著

天沼俊一氏の近業にして、是れ亦弟天沼文學士一周忌の記念出版に係る。著者が先に印行せる國東金石年表中の國東塔と燈籠塔の二者に就いて、其の研究を講話體に記せるものにして、菊版和装、本文圖版の二冊より成る。抑國東塔とは著者の新に命名せる大分縣國東地方に存する一種の石塔にして、塔座は反花及び蓮花座より成り、塔身壘形にて首部あり、相輪の上部寶珠の四方に火焔を附するを特徴とす。本文先づ此の塔調査の由來より筆を起し、以上形式の特徴を説き、様式に依つて所來る蓋し寶塔にある

べしと云ひ、立塔の目的に及び、以下岩戸寺の弘安六年の銘文ある最古の遺品より慶長八年の富貴寺の塔に至る遺物を年代順に配列して、一々其の様式を觀察し、其の變遷を明にせり。燈籠塔亦氏の名名に係るものにして、同じく國東半島に多き、火袋に點火の設備なく、佛像を彫刻せる燈籠形の石造物なり。文明十年の銘ある岩戸寺の作品に依つて型式を概觀し、類似の遺物に及べり。兩者ともに鮮明なる寫眞、實測圖を豊富に添へたるを以て、併せ見て興味を興ふ。著者の特志に依り此の隠れたる工藝品の明になれるは斯界の欣幸とする所なり。本書卷末に添ふるに國東金石年表の補遺を以てせり。(非賣品)

◎時代鑑別特別保護建造物総覽

木村眞吉編

編者は多年東京帝國大學工學部建築學教室にあり、古建築の研究に造詣深き人、本書は其の調査に當り「自」の主控を塚本博士の徳意に依り整理して刊行せるものなりと云ふ。收むる所大正六年八月までに指定を受けたる一切の保護建造物を網羅して、一々これに建築の年代を加へ、府縣別となし、五十音圖に配列せるものを主として、別に檢出の便をばかりて、初に府縣名索引と社寺名いろは別索引とを置き、附録に神社と寺院に別てる建造物の時代別一覽、日本建築史時代區分表、日本建築史略解、年表を添へたいり。保護建造物の目錄は國寶と併せたるもの、先に黒板博士の編

著ありて廣く行はるゝところなるが、時代に就いての記入を缺く。此の點に於いて本書は一の特色を具へたるものと見るべく、殊に入念の編纂とて讀者に種々の知識を興ふ。加ふるに大きボケット型にて携帶に便なれば、一般研究者に取つて好伴侶なるべし。(價二・〇〇、須原屋發賣)

◎和鏡聚英

廣瀬治兵衛編

此の書は編者が數年前より各地を旅行して、社寺、官廳、個人等の襲藏の倭鏡に就いて得たる拓本より、各時代の優品五百十五面を選擇して印行せるものなり。縦一尺一寸、横七寸五分の和裝仕立の大木にて三冊より成り、何れも攝影を原寸にて表し、一々附するに手法、寸法、金質、世傳別見地、傳説等を以てし、別に卷頭に詳細なる目次と卷末に文様別の索引あり此の種の研究者の好參考なり。此の書の出版は半ば編者が得意の手拓本を示さんとする觀賞的に出でたるが如きを以て、先に刊行の和鏡圖譜の寫眞なるに反し、此の方法を取れるならむも、學術上の參考としては寫眞の鮮明、正確なるに及ばざること遠く、手拓に際しては大きに差誤を生ずるなきを保せず、價格また稍高きに失するの感あり。(定價八五・〇〇、由本文華堂發賣)〔以上梅原〕